

## 2 研究の実際

### (2) 問題解決的な学習の授業展開

本研究では、授業展開の中に、書く活動①、話し合い、書く活動②を位置付けた問題解決的な学習を設定し、ねらいとする児童生徒の育成を目指して研究を進めました(図1)。

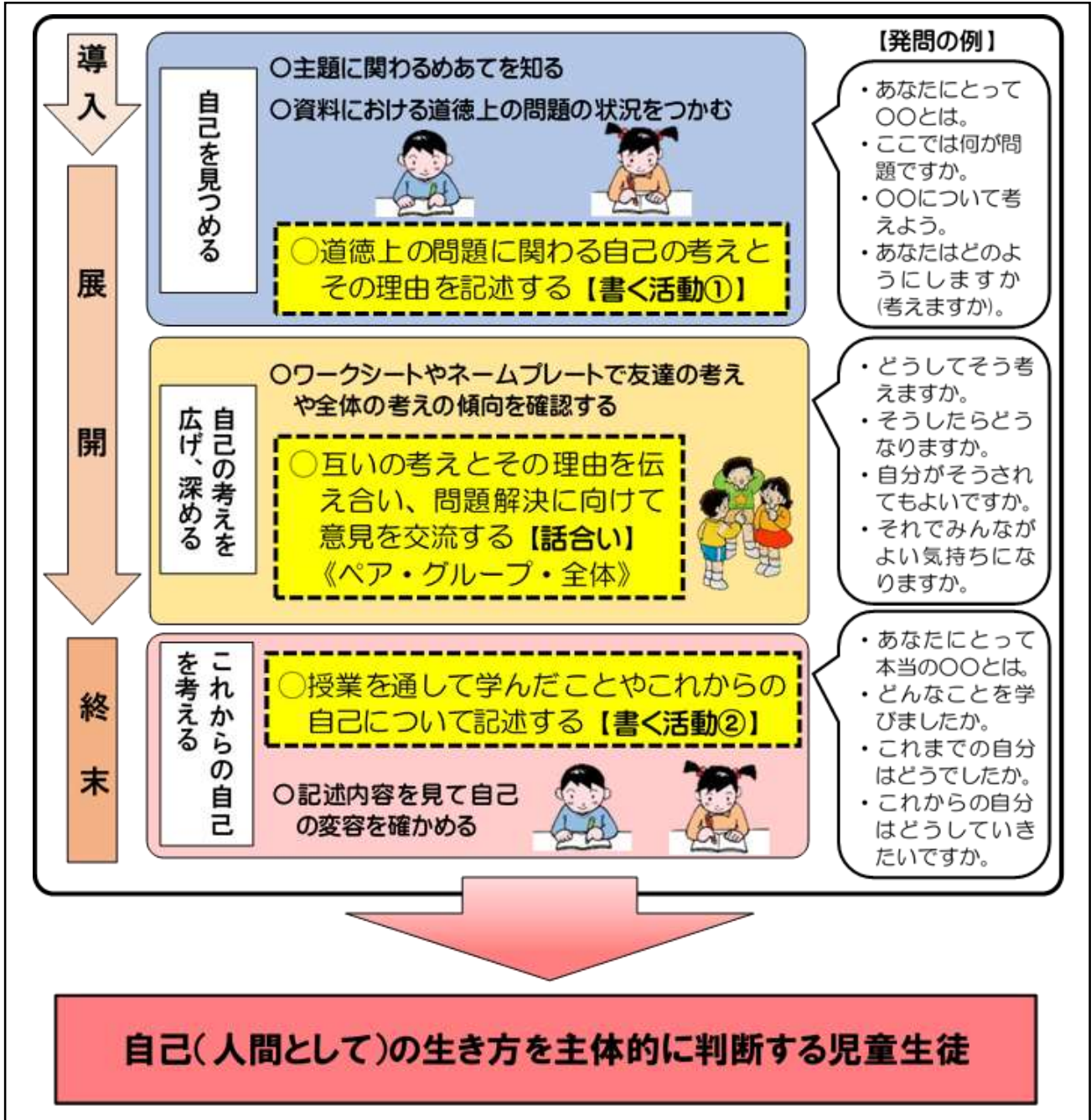


図1 問題解決的な学習の授業展開図

書く活動①で今の自己を見つめ、話し合いで自己の考えを広げたり深めたりし、書く活動②でこれからの自己を考えることをねらいとしました。これらの活動により、自己の考えが変化したり強化したりしたことや自己の言動を判断する視点の広がりを感じることができ、自己の成長を実感することにつながると考えました。

## ア 自己を見つめる段階

自己を見つめる

○主題に関わるめあてを知る  
○資料における道徳上の問題の状況をつかむ



○道徳上の問題に関わる自己の考えとその理由を記述する【書く活動①】

## 【発問の例】

- ・あなたにとって〇〇とは。
- ・ここでは何が問題ですか。
- ・〇〇について考えよう。
- ・あなたはどのようにしますか(考えますか)。

## 【主題に関わる問い】

授業で取り上げる主題についての自己の考えを確かめさせ、授業の中で考えていくべきこと(めあて)を知らせます。

## ○発問の例

- ・経験や事例から「〇〇でよかったのはどんなときですか」
- ・取り上げる道徳的価値について「あなたにとって〇〇とは」「〇〇について考えよう」
- ・本当の意味や意義について「〇〇とは何だろう」

## ◆留意点

児童生徒が授業で取り上げる主題について、主体的に考えるように促し、そこに含まれる道徳的諸価値の意味や意義について、授業を通して一貫して探究できるようにします。

## 【資料の提示】

読み聞かせる、写真やスライドを見せる、事前に読ませる等の方法で資料を提示し、内容の中で「何が問題になっているのか」「何と何で迷っているのか」「なぜそんな気持ちになるのか」などの発問により、道徳上の問題の状況をつかませます。

## 【問題に関わる問い(書く活動①)】

道徳上の問題に関わる問いを投げ掛け、これまでの自己の経験や体験、その時の感じ方や考え方に照らして、どのように判断したり行動したりするのか、自己の問題として捉えた解決策とその理由を考えさせます。

## ○発問の例

- ・問題の把握「ここでは何が問題になっていますか」
- ・問題解決に向けて「問題を解決するためにはどうしたらよいですか」  
「あなたならどのようにしますか(考えますか)」

## ◆留意点


自己の問題として捉えた解決策の対立点等を明らかにし、判断の理由を書かせることで、何を大切にしているのか、自己の道徳的価値観を明らかにさせます。

## イ 自己の考えを広げ、深める段階

**自己の考えを  
広げ、深める**

○ワークシートやネームプレートで友達の考えや全体の考えの傾向を確認する

○互いの考えとその理由を伝え合い、問題解決に向けて意見を交流する【話し合い】  
《ペア・グループ・全体》



**【発問の例】**

- ・ どうしてそう考えますか。
- ・ そうしたらどうなりますか。
- ・ 自分がそうされてもよいですか。
- ・ それでみんながよい気持ちになりますか。

## 【考えの可視化】

互いのワークシートを見合ったり、ネームプレートを黒板に貼ったりすることで、誰がどのような考えをもっているのか、全体的にはどのような考え方をしているのかを確認させます。自己の考えとは違う考えもあることを知り、その考えの理由を聞いてみたいという思いをもたせて話し合いにつなげるようにします。

【話し合いの指示・補助】 **ペアやグループなどの少人数での話し合い**

話し合いの前に「考えが違う相手から交流する」「相手の考えやその理由をメモする」「疑問に思ったことは質問する」などの留意点を確認させます。交流がうまくできない児童生徒には相手を見付けて考えを伝え合わせるなど必要に応じて補助をすることで、できるだけ多様な考えに触れさせます。

## ○発問の例

- ・ 理由の共有「なぜそのように考えるのですか（話し合い）」

## ◆留意点

自由に意見を出し合い、複数の解決策の理由について考えさせます。話し合いに慣れないうちは、話し方のマニュアルを使うことも考えられます。

【話し合いのまとめ】 **全体での話し合い**

多様な考えや理由がある中で、よりよい解決策を吟味していくような全体での話し合いにします。少人数での話し合いを基に、全体の話し合いで更に多様な考えに触れさせます。疑問点を互いに質問し合い、具体的に解決策を練り上げます。

## ○発問の例

- ・ よりよい解決策の検討「どのようにするのがよりよい解決策なのか」「互いによいのは」「みんながよいのは」「ずっとよいのは」

## ◆留意点

出された意見を類型化したり、対立する意見は全体的にまとめたりし、板書で可視化し整理しながら解決策を吟味します。他者の意見を尊重しながら、様々な角度から総合的に考察し、解決策についての自己の考えをより深めさせます。

## ウ これからの自己を考える段階

これからの自己  
を考える

○授業を通して学んだことやこれからの自己について記述する【書く活動②】

○記述内容を見て自己の変容を確かめる



## 【発問の例】

- ・あなたにとって本当の〇〇とは。
- ・どんなことを学びましたか。
- ・これまでの自分はどうでしたか。
- ・これからの自分はどうしていきたいですか。

## 【主題に関わる問い(書く活動②)】

主題に関わる問いを再度投げ掛けるなど、授業を通して学んだことを基に自己の考えを記述させます。また、学んだことをこれからの自己にどのように生かしたいかということについてまとめさせます。

## ○発問の例

- ・導入と同様の発問「あなたにとって本当の〇〇とは」
- ・考えの変化について「考えが変わったところは」「強くなった思いは」
- ・学んだことについて「どんなことを学びましたか」
- ・これまでの自分について「これまでの自分はどうでしたか」
- ・これからの自分について「これからの自分はどうしていきたいですか」

## ◆留意点

主題に照らして、これまでの自分に不足していたこと、これからの自分にできることを考えさせることで、よりよく生きていこうとする道徳的実践につなげるようにします。

## 【主題に関わる考えの確かめ】

「書く活動①」や「話し合い」のメモ、「書く活動②」の記述内容を見ながら、主題に照らしたこれまでの自己とこれからの自己への変化を確かめさせます。

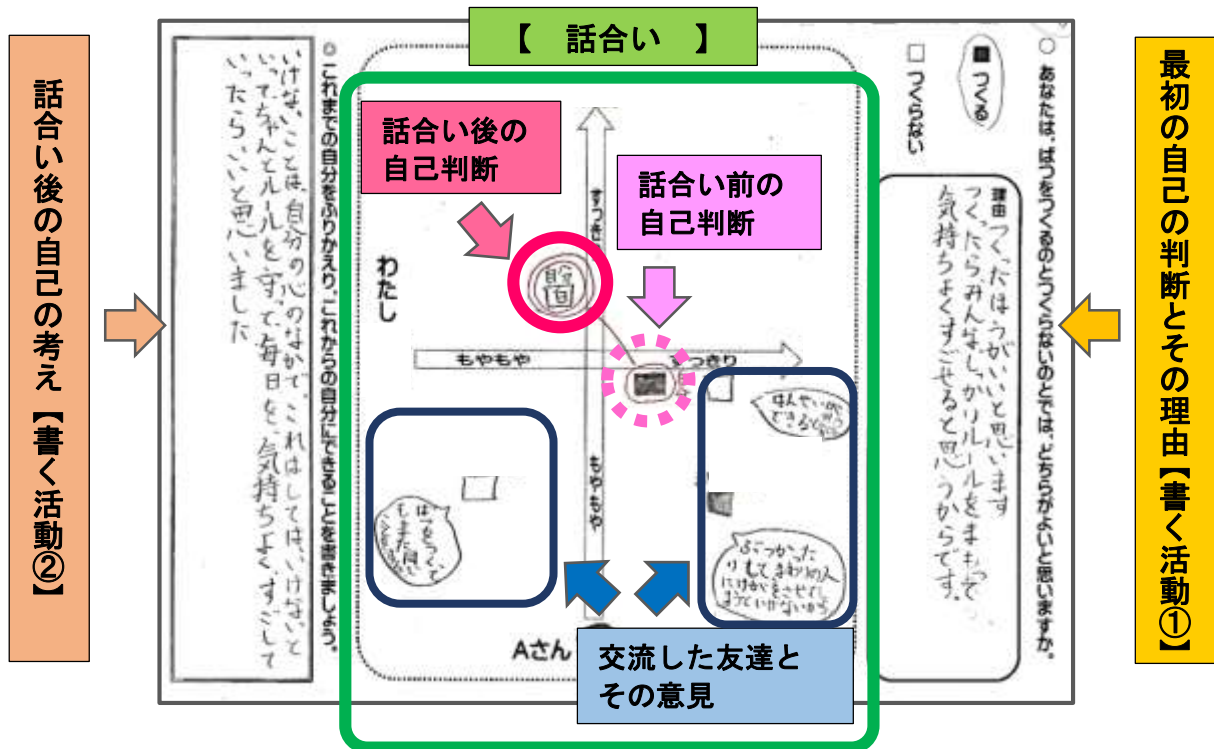
**エ 考えの可視化を生かしたワークシートの例**

① クロス表(資料1)

クロス表とは、道徳上の問題を2つの立場から考えさせるための手立てです。資料1は、本研究の授業実践1で用いたワークシートです。授業実践1では、左に位置する立場の人(わたし)にとっては右に行くほど気持ちがすっきりすることを表し、下に位置する立場の人(Aさん)にとっては、上に行くほど気持ちがすっきりすることを表しました。つまり、2つの立場の人がどちらもすっきりした気持ちになるためには、どのような判断や根拠がよりよいのか話し合いながら解決策を探っていくために用いました。

資料1に示した児童は、書く活動①の段階では、廊下走りをなくすために「罰をつくる」ことで「わたし」はすっきりするが、「Aさん」はすっきりしないと考えていることが分かります。そこで、話し合いでは、自分の考えとは異なる相手を選んで意見の交流を行い、メモを取っていることが分かります。ペアや全体での話し合いを踏まえた結果、書く活動②で、児童は「罰をつくらない」という考えをもっており、最初の自己判断から考えが変わったことが分かります。

このように、クロス表を用いることで、誰がどんな判断や根拠をもっているのか、よりよい解決策は何なのか、自己の考えがどのように変容したのかを捉えさせることができると考えます。



資料1 ワークシートの例①(クロス表)

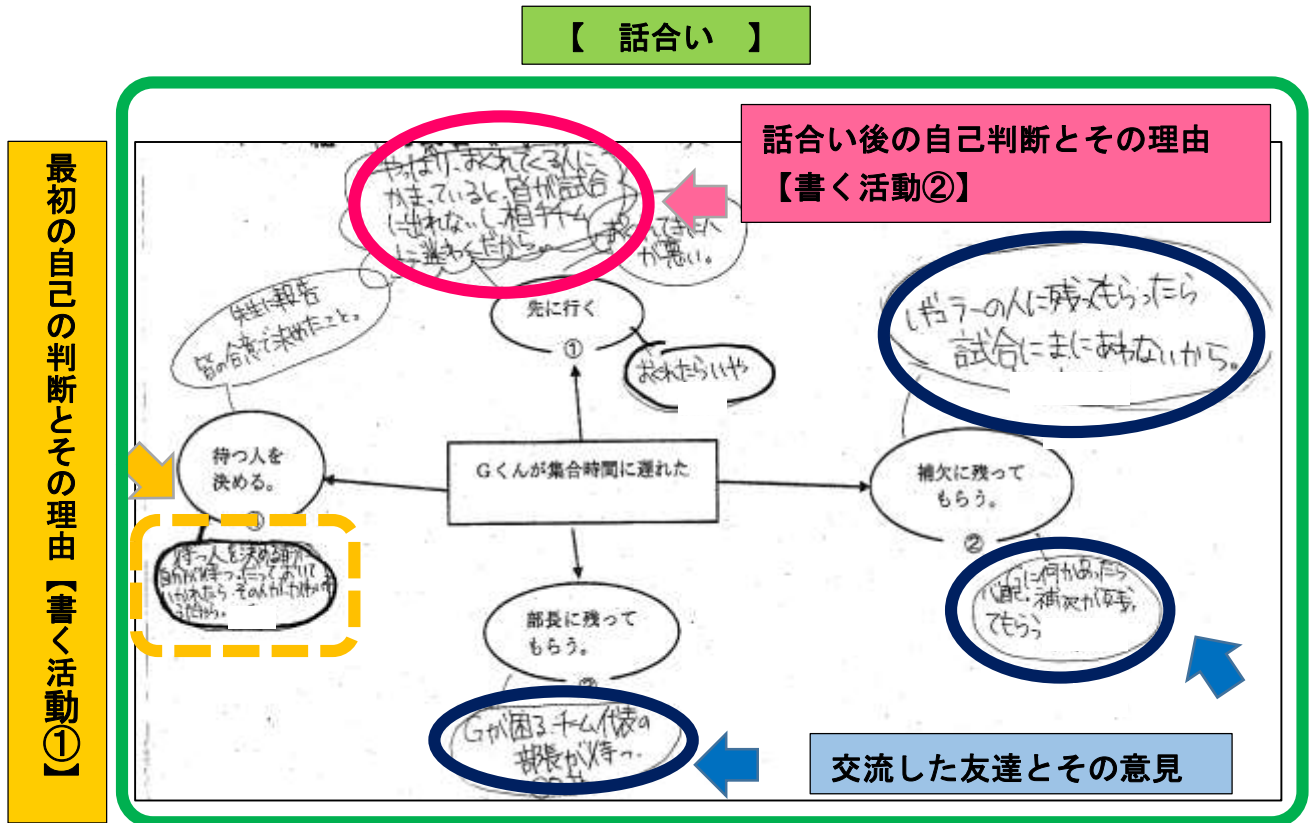
以上のことから、クロス表を用いる利点として、①道徳的価値に関わる問題を2つの立場から考えることができる、②自己やみんなの立場や判断を可視化でき、話し合う相手を見付けやすい、③相手の立場や考えを書き込むことができる、④複数の考えを踏まえた自己決定により、考えの強化や変化を捉えやすい、の4つが考えられます。

② ウェビング(資料2)

ここで用いるウェビングとは、道徳上の問題に対する様々な判断や根拠、その時の気持ちやその後の結果を可視化するための手立てです。資料2は、本研究の授業実践5で用いたワークシートです。授業実践5では、ワークシートの中央に道徳上の問題を示し、その時に考えられる判断の選択肢を4つ示しました。その中から、自分ならどのような判断をするのか、またその根拠は何か、その結果どうなるのかについて最初の自己判断を書かせました。それを基に、自分とは違う判断を選択している友達と意見を交流させ、メモをとらせました。そして、書き込んだウェビングを見ながら最終的に、よりよい自己判断と根拠を明確にさせるために用いました。

資料2に示した生徒は、書く活動①の段階では、集合時間に遅れた友達に対して「待つ人を決める」という判断を選択し、その根拠を書いています。話し合いでは、異なる判断を選択した友達と交流し、それぞれの考え方に触れていることが分かります。ペアや全体での話し合いを踏まえた結果、書く活動②で、生徒は「先に行く」という最終的な自己判断を選択し、その根拠を書くことができています。

このように、ウェビングを用いることで、誰がどんな根拠を基に判断をしているのか、それぞれの判断によってどのような結果になるのか、自己の考えがどのように変容したのかを捉えさせることができると考えます。



資料2 ワークシートの例②(ウェビング)

以上のことから、ウェビングを用いる利点として、①多面的・多角的に考えを広げたりつなげたりできる、②学級全体の意見をワークシートや黒板に可視化できる、③友達の考えの加筆が容易である、④自己の考えの変容を捉えやすい、⑤複数の解決策について吟味できる、の5つが考えられます。

③ 心のものさし(資料3)

心のものさしとは、道徳上の問題に対して、自分がどの(誰の)考えに近いか、またその理由は何かを可視化するための手立てです。資料3は、授業実践10で用いたワークシートです。授業実践10では、3人の考え方に対して自分の考えが誰に近いかを示し、その理由について話し合うことでよりよい考え方を探っていかなせるために用いました。

資料3に示した生徒は、書く活動①の段階では、罪を犯したかもしれない友人の自首に対し、「本人の意思を尊重する」という考えをもっていました。話し合いでは、「友人が捕まってほしくない」という意見に共感していることが分かりました。ペアや全体での話し合いを踏まえた結果、書く活動②で、生徒は「自分の考えをきちんと友人に伝える」という新たな考えをもってすることが分かりました。

このように、心のものさしを用いることで、誰がどの考えに近くてその理由は何か、どうすることが相手や自分にとってよりよいのか、自分の考えがどのように変容したのかを捉えさせることができます。

**道徳ワークシート**

**【話し合い】**

友達のためになること

1 あなたがロレンソの友達だったら、3人のうちどの考えに賛成(近い)ですか。心のものさしに、▲をつけましょう。選んだ理由は、付箋紙にかきましょう。

ニコライ(南)	サバイユ(中)	アンドレ(北)
▲		

本人が本当に悪いと思っていなかったら意味がないと思うから。

の人の意見でいいなと思った意見があったら、書こう！  
本人の判断が一番でも捕まってる方がいい

**交流した友達とその意見**

2 あなたは、友達のために、どのように行動しますか。

素直に謝ることをすすめる。  
いかなくても行くように言う

**最初の自己の考えとその理由【書く活動①】**

**話し合い後の自己の考え【書く活動②】**

資料3 ワークシートの例③(心のものさし)

以上のことから、心のものさしを用いる利点として、①道徳的価値に関わる問題に対する心の迷いを表すことができる、②自己やみんなの立場や判断を可視化でき、話し合う相手を見付けやすい、③自己の考えを付け加えたり相手の立場や考えを書き込んだりすることができる、④話し合いの前後で考えが変わったことが分かり、自己の考えの強化や変容を捉えやすい、の4つが考えられます。

それぞれの利点を生かして、自己の考えや他者の考えをワークシートや板書に書き表すことで、多面的・多角的な思考を促し、よりよい行動を主体的に判断する手掛かりになると考えます。